第6回　総合教育会議の結果について

文教・警察常任委員会資料
平成28年2月10日（水）
教育委員会事務局教育総務課

会議次第

平成28年2月3日（水）
15:00～17:00
県庁東館大会議室

1. 困難を抱える児童生徒の現状と支援について

【ヒアリング】

○滋賀の縁創造実践センター所長　谷口　郁美　氏
　＜地域の実践者から＞
　・フリースペースかなで　松川　恵　氏
　・子ども食堂平野学区のぞみ　梶村　康子　氏
　・にぎわい広場カトレア子ども食堂　山元　照代　氏
　　川村　洋子　氏　、　竹内　清美　氏
○湖南市教育委員会教育長　谷口　茂雄　氏
○大津市立平野小学校長　川本　眞　氏

2. 今年度の総合教育会議の総括と次年度の開催方針について

主な意見等

≪１．困難を抱える児童生徒の現状と支援について≫

ゲストスピーカーから現場の状況等を説明いただいた後、質疑・意見交換

・貧困は見えにくく、世間の認知度は低いと感じるが、食事を与えられないため給食を食べに登校するなど、勉強どころではない困難な状況にある子どもが身近にいる。その子たちの居場所づくりに取り組んでいる。
・大切なことは、子どもが「安心できる大人たち」と出会える場所づくりである。
・学力は二極化状態にあり、様々な理由で家庭での学習環境がない下位層の引き上げが大切。福祉と教育、さらには行政だけでなくNPOやまちづくり団体などと連携する「家庭教育支援システム構築」が必要である。
・学校現場では朝食を食べてこられない子、長期休業明けに痩せている子、服装が季節と合わない子など、個々の子どもをよく見ることで困難な状況を把握できる。認知した場合については、家庭の様子見など、学校だけで対応が難しい部分で地域の力が必要である。
・不登校対策など課題克服には加配教員が効果を上げていることから、外国籍の子どもへの支援等に対しても加配教員が有効ではないかと考えている。学校におけるマンパワーは最も重要な要素である。
・昔は当たり前に、地域が担っていた役割を果たす力が今の地域社会にないため、フリースペースや子ども食堂などがその役割を果たしていただいている。昔はもっと「地域の子」という意識が社会にあった。そういう意識をみんなが持つ必要がある。
・子どもたちが様々な大人と関われる方が良いため、フリースペース等の取組が広がることは望ましいが、やはり基本は親子関係であり、受入れ日数を増やして施設の生活が中心となることが必ずしも理想とは言えない。

≪２．今年度の総合教育会議の総括と次年度の開催方針について≫

・今後も行政以外の様々な声も聴くべき。
・主権者教育とは選挙技法の教育のみに留まらず、社会の問題を自らの問題として「考える」力、姿勢など、生きる力を学校教育でどのように育むかという問題であるので、今後も議論していきたい。
・本県の総合教育会議は知事のリーダーシップのもと、施策化に向けて重要な議論が出来ている。
・会議をやって終わりではなく、行政だけでは把握できないことを可能な限り把握し、この会議を予算や組織体制にも反映させるよう心掛けていきたい。